

(様式4-1)

中間報告書

補助事業名	「すみだ川アートラウンド」～ARTs×SDGsでつながる隅田川流域の民間組織コレクティブ化構想							
事業期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	大学名	東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科					
実施概要	<p>令和元年度から令和3年度まで本学が採択を受けた「Meeting アラスミ!」を継承し、発展させる事業である。事業対象区域を流域3区から7区(北区・足立区・荒川区・墨田区・台東区・中央区・江東区の7区)へと拡大。未来の「アラスミ・アーツカウンシル」発足を視野に入れ、民間組織のコレクティブ化から発想されるような、流域における産官学の連携プラットフォームの土台形成を目指す。</p> <p>連携の基盤として、ARTs×SDGsの可能性に着目。以下の4つの事業を通して、隅田川流域で活動するアート分野以外の民間事業者との対話を重ね、社会課題に対してアートの特性を活かした解決策を模索するほか、行政広域連携のきっかけを探る。活動にはさまざまなかたちで関与する参加者を募ることで、アートマネジメント専門人材の継続的な育成の場とする。</p> <p>(1) すみだ川アートラウンド・ラウンドテーブル さまざまな分野での、ARTs×SDGsをテーマにした領域横断的な取り組みを実現するための議論と事業の実施。</p> <p>(2) すみだ川アートラウンド・プラクティス 隅田川流域7区内のアートNPOのコレクティブ化構想の実現を目指す。</p> <p>(3) すみだ川アートラウンド・ハブ 隅田川流域で活動する官/民の交流の場を設ける。</p> <p>(4) すみだ川アートラウンド・キックオフミーティング 上記(1)～(3)の活動を実施するメンバーが参加し、相互の活動報告・情報共有・活動の周知を行うことで事業の活性化につなげる。</p> <p style="text-align: center;">※ 詳細(講座名, 講師名, コマ数, 公演名, 会場名, 公演回数等)は下部の各活動欄に記入してください。</p>							
共催者名・後援者名・協賛者名等とその役割	<p>・プロジェクトパートナー ラウンドテーブル: 公益財団法人東京都公園協会、株式会社浜野製作所、I JUST INC. プラクティス: 地域包括支援センター関原、中部ひまわり保育園、保木間小学校、あだち子ども支援ネット ハブ: ピアレビュー実施団体(一般社団法人藝と(墨田区)、らんたん亭(足立区)) ・共催(共同研究) みずほフィナンシャルグループ、東京藝大「I LOVE YOU」</p>							
全活動合計	計画	実績	差	計画と実績の差異理由				
来場者	145	193	48	来場者、育成対象者ともに計画を上回る結果となった。				
育成対象者	180	202	22	(2)プラクティス(テーマ①子どもの貧困)にて、申請時にワークショップとして計画していたプログラムを拡大して「アートなお祭り」と題した体験プログラムを実施したことから、計画を大きく超えた人数が参加した。				
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業職員	その他
	人数	26	2	2	53	60	25	34
育成対象者具体的な職業	東京藝術大学学生、ピアニスト、音楽家、美術家、文化施設職員、公共機関職員(東京都、北区、足立区、墨田区、台東区、公益財団法人東京都公園協会、地域包括支援センター関原、中部ひまわり保育園、教育委員会)、母子生活支援施設ポルテあすなる(足立区)、一般社団法人あだち子ども支援ネット(足立区)、一般社団法人藝と(墨田区)、らんたん亭(足立区)、NPO法人まちづくりたいとう(台東区)、株式会社浜野製作所、I JUST INC.、宮前ソラのマルシェなど							

アートマネジメント人材育成目標	申請時		達成状況	
	<p>①対象地域内のアートNPOの人的基盤の強化(インターンの導入・定着)</p> <p>②芸術以外の分野と接続することに関心のあるアーティストの増加とプログラム開発力の強化</p> <p>③アートによるSDGs課題解決に関心のある企業や行政関係の職員の啓発</p> <p>④当該分野の専門家を目指す大学生や文化ボランティア経験者の現場参画への契機を増やし、より深いコミットメントの体験を提供</p> <p>⑤社会と接続する芸術活動をさまざまな形で支援する市民を増やす</p>		<p>①主に(2)プラクティス、(3)ハブにおいて、アートNPO人材を対象とした育成に取り組んでいる。(3)ハブでは8月にインターン生を公募・受け入れを開始。下半期にはインターン生とともに次年度を見据えたりサーチなど具体的な活動を通して定着化を図る予定である。</p> <p>②(1)ラウンドテーブルでは「再生可能エネルギー」、(2)プラクティスでは「子供の貧困」「高齢化社会」をテーマに活動を展開している。アーティストはそれらの活動への参画を通して、非アート領域の課題へとアートを通じてどう取り組むべきか、適切なプログラムのあり方とはどのようなものか実践的に学ぶ機会を得ている。</p> <p>③(1)ラウンドテーブルでは、発電する屋台制作を通して、ものづくりを専門とする技術者等、多様な非アート領域の人材がアーティストと協働している。(2)プラクティスでは、支援施設等の職員が、本事業を通じたアートプログラムの実施により啓発され、本事業以外にも自主事業としてアートプログラムを実施するなどの成果が現れてきている。(3)ハブでは行政職員を対象にアート×防災について考える機会を提供した。</p> <p>④(1)ラウンドテーブル、(2)プラクティス、(3)ハブの事業において、大学生や文化ボランティア経験者が現場参画している。事業2年目であり、活動はより実践的になり深度を増しているが、昨年度から継続的に関与している参加者を中心に、活動へのコミットメントの強化を図ることができている。</p> <p>⑤(1)ラウンドテーブル、(2)プラクティスにおいて、アートを通じて複数の社会課題へと取り組む活動を、パブリックスペースである隅田川テラスから地域のセーフティネットを担う対人援助施設まで、人々の生活に密接に関わる多様な場所で展開しており、市民が様々な形で活動に出会い、それぞれの立ち位置・視点から活動に関わることができる設計となっている。</p>	
事業の社会的な役割、効果	申請時		達成状況	
	<p>以下のようなプロセスで、隅田川流域の広域連携を担う「アラスミ・アーツカウンシル」構想を実現する。</p> <p>(1)地域内のアートNPOを「コレクティブ」という緩やかな連携に導き、プログラムの共同開発や活動ベースの相互連携などを可能にするプラットフォームを形成する。</p> <p>(2)1のプラットフォームを土台として隅田川流域のネットワークが広がり、非アート系の団体や企業も参画する素地となる。</p> <p>(3)異分野が交流して社会変革にとりくむ民間主導のプラットフォーム/コレクティブを行政が支援して、広域連携が生まれる。</p>		<p>本事業の擁する複数プログラムへ様々な形で参画する団体・個人の相互交流を促進することを目的に、今年度は(4)キックオフミーティングを新設し開催した。ミーティングでは「アラスミ・アーツカウンシル」構想や隅田川文化圏の形成について紹介し、広域連携を意識しながら、昨年度は個別に進んでいた活動がつながるきっかけとなった。また、すでに多様な非アート団体や企業との協働により、(1)ラウンドテーブル、(2)プラクティスを行なっている。さらに(3)ハブでは行政職員を対象としたネットワーキングに取り組んでいる。よって、左の申請時目標(1)-(3)は、達成に向けて並行的に前進している状況である。</p>	
事業に関して学会発表、メディアでの掲載実績や予定	<p>メディア掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットTAM 情報掲示板 ・まち座(建築・都市・まちづくりウェブメディア)イベント情報 ・note(森 隆一郎 ~ 渚と / nagisato) ・東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻ウェブサイト 			
事業で得た課題や経験、今後の活用方法	<p>事業2年目も半ばを迎え、それぞれの活動は深度を増しており、ネットワークや反響も大きくなっている。この流れをいかに流域全体を包括した文化的プラットフォーム形成へと繋げていくかが現在の課題となっている。</p> <p>また各活動において育成されているアート×SDGsの実践者たちが、上記のプラットフォームに参画し、それぞれの特性を活かした役割を担うことができる体制のあり方について検討していく必要がある。</p> <p>ウェブサイトの展開以外においては広報活動は活動別に行われている状況であるため、「すみだ川アートラウンド」という事業全体としての周知に力を入れていく必要がある。</p>			
担当者所属・氏名	三橋愛子	電話	050-5525-2731	
		E-mail	mihashi.aiko@off.geidai.ac.jp	

活動①

講座名 企画名	隅田川を舞台に展開するSDGsプロトタイプング 第二章:サーキュラー・ガバナンス 電気を生み出す屋台をつくらう!							
講師名 出演者名	ディレクター:清宮陵一(NPO法人トッピングイースト) パートナー: 岩間賢(美術家/東京藝術大学 美術学部絵画科 油画専攻 壁画第二研究室) 原寛道(千葉大学 環境デザイン研究室) 浜野製作所 I JUST INC.							
日時	9月17日(日)、9月24日(日) 今後の活動予定: 10月1日(日)、10月8日(日)、10月15日(日)、10月22日(日)、10月29日(日)			コマ数	合計21コマ(1日4.5時間=3コマ×7回)			
会場・教室	すみだがわオープンテラス2023 会場 越中島テラス(江東区越中島1丁目地先 越中島防災船着場周辺)				計画	実績	差	
				来場者	90	45	-45	
				育成対象者	20	11	-9	
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設 職員	公共機関 職員	民間団体 職員	民間企業 社員	その他
	人数	2			2	1	6	
実施概要	<p>「すみだ川アートラウンド・ラウンドテーブル」では、SDGsが掲げる目標に関連する3つのテーマ「再生可能エネルギー」「食」「モビリティ」について隅田川流域で活動する事業者や個人との対話を行い、そこで生まれたアイデアを具体化して流域における地域内循環を実現していくことを目指している。</p> <p>今年度は、昨年度のラウンドテーブルにおける「再生可能エネルギー」のチームから生まれた構想を踏まえて、実際に公共空間で「給電できる移動式屋台」をプロトタイプングする取り組みを実施することとなった。</p> <p>屋台製作のパートナーとして、美術家の岩間賢氏(東京藝術大学 美術学部絵画科 油画専攻 壁画第二研究室)、原寛道氏(千葉大学 環境デザイン研究室)、浜野製作所、I JUST INC.の協力を得て進めており、岩間賢氏が毎週現場に赴き、製作統括を担っている。また、隅田川テラスを維持管理する公益財団法人東京都公園協会(昨年度、本年度の「すみだ川アートラウンド・ハブ(2)」参加団体)と連携。「電気を生み出す屋台をつくらう!」と題し、協会主催のイベント「すみだがわオープンテラス」の1コンテンツとして、イベント来場者が参加できるオープンな形でプログラムを展開している。</p> <p>9月17日(日)と9月24日(日)のプログラムでは、さまざまな機材を持ち寄り、どのような「給電できる移動式屋台」ができるか構想するところからスタートし、実際に木材の組み立てを開始した。会期後半には試作屋台を完成させ、「すみだがわオープンテラス」内の店舗あるいはインフォメーションセンター等として活用することを目指す。</p>							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	今後ニーズが高まるであろうSDGs×アートプログラム企画運営の経験を有するアートマネージャーを育てる。 非アート分野の対象者にとっては、アートとの連携によりSDGs課題に新たな側面からアプローチできる実感を得る機会となる。				アート分野・非アート分野それぞれから、本事業に昨年度参加した育成対象者が継続的に事業に参加していると同時に、東京都公園協会主催イベントの一環としてプログラム実施することで新規参加者も獲得している。SDGs×アートについてアーティストと協働しながら実践的に学ぶ機会となっている。			
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	<p>昨年度に本事業内で生まれたアイデアの隅田川流域での実装化に向けて、テラス管理団体である公益財団法人東京都公園協会と良い連携を結ぶことができています。また、協会の上位組織である東京都建設局河川部とも「すみだ川アートラウンド・ハブ(2)」などで交流を深めており、実装化に向けた環境が整ってきています。さらに、今年度からはアーティストの岩間氏をはじめ、千葉大学の原氏、浜野製作所など、実機製作のパートナーを新たに獲得した。</p> <p>10月末の公開プログラム終了後は、上記の連携先やパートナー及び育成対象者と、今年度のプロトタイプの際のさらなる発展について検討していく予定である。</p>							

活動②

講座名 企画名	すみだ川アートラウンド・プラクティス 地域内のアートNPOのコレクティブ化計画（テーマ1） ＊申請時の名称:すみだ川アートラウンド・プラクティス テーマ01:子どもの貧困 キッズ・プレイルーム(仮称)							
講師名 出演者名	コーディネート:ムジタンツ(足立区/任意団体) フィールド提供:母子生活支援施設ポルテあすなる、あだち子ども支援ネット(足立区) アートプログラム提供:谷中のおかって(台東区/一般社団法人)大西健太郎、LANDFES(江東区/NPO法人)松岡大、南條由起(ヴァイオリニスト)							
日時	[事前ヒアリング] 5月17日(水)17:00- 母子生活支援施設ポルテあすなる あだち子ども支援ネット(1コマ) 7月10日(月)15:30-17:00 協働アーティスト [谷中のおかって](1コマ) 8月11日(金)19:00-20:30 協働アーティスト(1コマ) 8月29日(火)10:30-13:30 母子生活支援施設ポルテあすなる、施設併設学童少年指導員、あだち子ども支援ネット(2コマ) 9月12日(火)協働アーティスト [LAND FES](1コマ) [事前ワークショップ「祭り準備祭り」] 8月30日(水)14:00-17:00(2コマ) 9月6日(水)14:00-17:00(2コマ) 9月13日(水)14:00-17:00(2コマ) [本番] 9月18日(月祝)「アートなお祭り」10:00-17:30(4コマ) [振り返り] 9月20日(水)10:00-11:30(1コマ) -今後の予定- 10月3日(火)11:00-12:30(1コマ) 10月21日(土) 20:00-21:30 (1コマ)			コマ数		[事前ヒアリング](6コマ) [事前ワークショップ](6コマ) [実践](4コマ) [振り返り](2コマ)		
会場・教室	・東京藝術大学 上野キャンパス 国際芸術創造研究科 会議室 ・母子生活支援施設ポルテあすなる 諸室・ポルテホール ・足立区立保木間小学校 体育館・教室 ・オンライン					計画	実績	差
	来場者				15	87	72	
	育成対象者				10	30	20	
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数				2	28		
実施概要	<p>テーマ①「子どもの貧困」では昨年度までこのテーマに取り組んでいた「ムジタンツ」が引き続きコーディネーターとなり、母子生活支援施設ポルテあすなるおよび一般社団法人あだち子ども支援ネットと連携しながら、母子生活支援施設近隣の小学校を会場として「アートなお祭り」と題した体験型イベントを実施した。本企画には「谷中のおかって」「LAND FES」が協働アーティストとして参加し、事前ワークショップや当日のパフォーマンス、ファシリテーション等を担当した。</p> <p>「母子生活支援施設の入居者は、入居後不登校になるケースも少なくなく外部の人との交流が希薄になる」という課題を受け、施設に入居の子どもたちと同じ地域に暮らす子どもたちとが、アート活動を通じて緩やかに交流する場を目指し計画を進めた。「アートなお祭り」では、入場時間や、参加人数に制限を持たせずに参加者が自由に複数のコンテンツを回遊できる形式とした。その結果、昨年度と比較すると入場者数が大幅に増加(およそ3倍)した。また、母子生活支援施設に入居の子どもたちを対象に、祭りを準備する事前ワークショップを3週間にわたって実施したことで、ともしれば外出を躊躇う子どもたちが地域活動に参画する機運を醸成することができた。「アートなお祭り」当日は、施設の子どものもと地域の子どもの垣根なく声を掛け合い、交流することができ、育成対象である施設スタッフからも手応えが感じられたとの声があがった。</p> <p>昨年度ハブで構築したネットワークを活かし、複数のアーティスト、アート団体の相互乗り入れが実現したことで、これまでとは異なったアートの可能性を提示することができ、大きな反響を得た。</p>							

	申請時	達成状況
アートマネジメント人材育成目標	<p>①SDGs×アートなど複合的なアートプログラムを企画立案し、主体的に実施することのできるファシリテーター、コーディネーターの育成。</p> <p>②持続可能な社会構築に向けた、パートナーシップ構築の体験・学習。</p> <p>③活動対象地域のアートNPOの人的資源を強化し、行政・企業・アート関係およびそれ以外のNPO法人がともに学びあうラーニングコミュニティの醸成。</p>	<p>①今回のプログラム実施における背景には様々な要素が複合的に存在しているため、情報共有や意見交換を丁寧に行っていった。複雑な文脈を理解して他者と協働しながら、各々の立場や特性を発揮して実践を行う経験を積むことができています。</p> <p>②上記のような情報共有は実現できたものの、関係者間のコミュニケーションにおいてはまだまだムジタンツを介したものとどまっている部分もある。今後、多方向的なやりとりを更に促進することができるよう、ネットワーク作りを図っていきたいと考えている。</p> <p>③今回のプログラムでは、特に地域の人とのつながりの貧困、体験の貧困を軽減するよう働きかけることを念頭に置いていた。正解がない事柄であるが故に実践と振り返りを行う中で、アートNPOと属するアーティスト、その他育成対象者が、上記のファシリテーター、コーディネーターとしての視座、視点を増やしている。後期にもう一度実践を行うことにより、企画、実践、振り返りの往還が生まれ、更に育成が図られていくと考えている。</p>
活動で得た課題や経験、今後の活用予定		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度ハブで構築したネットワークを活かし、複数のアーティスト、アート団体の相互乗り入れが実現したことで、これまでとは異なったアートの可能性を提示することができ、大きな反響を得た。 ・今回実施の「アートなお祭り」は、大規模なイベントとなったため、経験値の高いスタッフが必要であったため、学生に有償のアルバイトをお願いしたが、彼らにとっての学びも大きかった。同様に、今回参画したアーティストにとっても複雑な文脈での実践学習が起きていると考える。 ・昨年度までにムジタンツが主導して実施していた構造的な強いプログラム形態(時間・人数・対象年齢に制限のあるワークショップ形式)から、何が起きても良いカオス的な「祭り」へ展開したことで、より幅広いアートの可能性を提示することができた。母子生活支援施設に入居の子どもたちが普段接することのない人々と積極的に交流している様子も想定以上に数多く見受けられ、アートを通じた偶発的な出会いや交流において非常に効果的な形式であることが分かった。ただし、施設への事前ヒアリングから「構造的な強いプログラム形態だからこそ、安心して子どもたちを参加させることができていた」ということもわかり、連携先との実施経験の積み上げが重要であることが示唆された。 ・本学と包括連携協定を結び、共同研究を実施しているみずほファイナンシャルグループが参画、また学内公募助成に採択されたことから、年度内にもう一度実施できる可能性も出て来た。上記を踏まえてより発展した形で、年度内にもう一度実施することを計画したい。

活動③

講座名 企画名	すみだ川アートラウンド・プラクティス テーマ02:高齢化社会 アートで多世代交流							
講師名 出演者名	コーディネート:音まち計画(足立区/NPO法人) フィールド提供:地域包括支援センター関原(足立区) アートプログラム提供:谷中のおかって(台東区/一般社団法人)大西健太郎・富塚絵美 ※ムジタンツ(足立区/任意団体)は11月27日に実施予定、LAND FESはR6年1月29日に実施予定(江東区/NPO法人) ※地域包括支援センターは、市町村が設置主体となり、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員等を配置して、3職種ของทีมアプローチにより、住民の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする施設である(厚労省)							
日時	4月5日(水)地域包括支援センター関原(育成対象者)との打ち合わせ 4月14日(金)地域包括支援センター関原 打ち合わせ 6月2日(金)プログラム提供団体 打ち合わせ 7月14日(金)地域包括支援センター関原 打ち合わせ 8月2日(水)地域包括支援センター関原・中部ひまわり保育園(育成対象者)打ち合わせ 9月15日(金)地域包括支援センター関原・中部ひまわり保育園打ち合わせ 9月25日(月)プラクティス 多世代交流事業				コマ数	8コマ実施 4月5日(水):1コマ 4月14日(金):1コマ 6月2日(金):1コマ 7月14日(金):1コマ 8月2日(水):1コマ 9月15日(金):1コマ 9月25日(月):2コマ		
会場・教室	オンライン、地域包括支援センター関原、中部ひまわり保育園					計画	実績	差
					来場者	10	26	16
					育成対象者	10	32	22
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	8			15	9		
実施概要	昨年度に高齢福祉の現場から課題として提案のあったアート(ダンス・音楽)を取り入れた介護予防プログラム及び多世代交流の場づくりに応答したプログラムを高齢福祉の現場職員とともにプログラムを作っている。プログラムの参加対象を地域包括支援センター関原と関係のある高齢者と近隣の保育園の園児とした。 日程:9月25日(月)10:00-11:00 場所:地域包括支援センター関原 プログラム提供:谷中のおかって 日程:11月27日(月)10:00-11:00 場所:地域包括支援センター関原 プログラム提供:ムジタンツ 日程:1月29日(月)10:00-11:00 場所:地域包括支援センター関原 プログラム提供:LAND FES							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	・アートによるSDGs課題解決に関心のある企業や行政関係の職員の啓発 ・SDGs×アートなど複合的なアートプログラムを企画立案し、主体的に実施することのできるファシリテーター、コーディネーターの育成。 ・持続可能な社会構築に向けた、パートナーシップ構築の体験・学習。 ・活動対象地域のアートNPOの人的資源を強化し、行政・企業・アート関係およびそれ以外のNPO法人がともに学びあうラーニングコミュニティの醸成。				地域包括支援センター関原の職員が、昨年度の経験(すみだ川アートラウンド)から、関係のある高齢者にアートを取り入れた介護予防プログラムへの期待についてアンケートを実施。その結果、約4割の方がアートを取り入れた介護予防教室があれば参加したいと回答した。それを受け、今年度は「アート×福祉」のプログラム「うめだアートリンク」が地域包括支援センター関原の重点事業と位置づけられるとともに、本事業以外にもアートを取り入れたプログラムを積極的に実施するようになったことから、職員たちをアートプログラムのファシリテーター・コーディネーターとして育成していることの成果が現れている。			
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	・昨年度、今年度の地域包括支援センター関原との活動内容を聞きつけた足立区内他地域の包括支援センターから「アート×福祉」を取り入れたプログラムの実施を希望する相談があった。 ・地域包括支援センター関原のように「アート」とのつながりを求める高齢福祉の現場スタッフに本事業のことを知ってもらい、出会っていくことが「アートによるSDGs課題解決に関心のある企業や行政関係の職員の啓発や、SDGs×アートなど複合的なアートプログラムを企画立案し、主体的に実施することのできるファシリテーター、コーディネーターの育成」に繋がっていくことから、活動の周知にも注力していく。							

活動④

講座名 企画名	すみだ川アートラウンド・ハブ 流域で活動する官/民の交流の場 (1)民間事業者やNPO、文化・芸術団体等によるピアレビュー ※ピアレビュー：同業者による相互評価のことを指す							
講師名 出演者名	①対話と支え合いの評価手法 ピアレビュー入門(公開講座) 若林朋子(プロジェクト・コーディネーター/立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任教授)、熊倉純子(東京藝術大学 教授)、森隆一郎(合同会社渚と 代表社員/アーツカウンシルさいたま プログラムディレクター) ②アートNPO団体によるピアレビュー(非公開講座) 藝と(墨田区/一般社団法人)、らんたん亭(足立区/任意団体)							
日時	①対話と支え合いの評価手法 ピアレビュー入門(公開講座) 7月22日(土)14:00~15:30 ②アートNPO団体によるピアレビュー(非公開講座) 9月10日(月)13:00-16:00 ③インターン公募希望者への説明会 8月8日(火)19:00-21:00	コマ数	①:1コマ ②:2コマ ③:1コマ					
会場・教室	①-③:東京藝術大学千住キャンパス				計画	実績	差	
				来場者	30	35	5	
				育成対象者	45	44	-1	
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設 職員	公共機関 職員	民間団体 職員	民間企業 社員	その他
	人数	4	1	2	9	7	6	15
実施概要	①では、「ピアレビュー入門編」をテーマに『アートプロジェクトのピアレビュー 対話と支え合いの評価手法』(2020年、水曜社)の出版にも携わり、さまざまなコーディネート、コンサルティング業務を通してアートプロジェクトに伴走してきた若林朋子氏を招聘し、アートプロジェクトの評価やピアレビューの基礎知識や実践方法などについて学び公開講座を実施した。 ②では、一般社団法人藝と(墨田区)とらんたん亭(足立区 任意団体)をピアレビューの参加団体として本事業に参加。1回目の非公開ピアレビュー(9/11)では、ピアレビューの共通テーマを設定するためにそれぞれの団体のミッションやビジョン、運営体制や地域との関わりなどを共有し、「価値の感じ方」をキーワードに双方の活動を掘り下げていくこととした。 ③では、本事業のインターンに向けた顔合わせとインターンの活動内容の説明などを行った。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	・対象地域内のアートNPOの人的基盤の強化(インターンの導入・定着) ・当該分野の専門家を目指す大学生や文化ボランティア経験者の現場参画への契機を増やし、より深いコミットメントの体験を提供 ・社会と接続する芸術活動をさまざまな形で支援する市民を増やす				・本事業①-③の参加者は、文化・芸術関係に携わる様々な属性の方が参加しており、「自身も規模は違うがプロジェクトを通しての草の根の多様な団体との交流、つながりあいを作れば、そこから次の活動の種が生まれればと構想しているため」や「評価の方法について考えることができた(仕事で応用できそう)」といったように参加者自身の活動にフィードバック可能な講座を提供することができた。 ・インターンでは、公共機関に勤めながらアートプロジェクトのボランティアに携わる方や、「音響と音楽、文化、社会を通じて新しいものを創造したいと思っている。そのためにイベント運営の実践を学びたい」浪人生からの応募があり、インターンに参加することで現場参画への契機となった。			
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	①の参加者は、芸術・文化に携わる様々な属性の方が参加しており、実施後のアンケートでは、「気になっていたピアレビューについて入門的に知ることが出来た」や「今知りたいと思っていたこと、長く知りたいと思っていたことが流れるように解けた」などピアレビューへの関心の高さが伺えるとともに、具体的な手法を紹介することでピアレビューの実践者を増やす契機となった。 ③においてもインターン生自身が実践者である方が多く、他の文化団体との繋がりを求めて参加していることから、「評価」を通じたネットワークの形成への需要が高まっていると感じた。今後の展開としては、次年度以降のピアレビューに向けた対象地域内の文化団体のリサーチをインターン生と進め、インターン生自身が他団体とピアレビューを通じて繋がっていく機会を設けていく。 ②のピアレビューの参画団体である一般社団法人藝ととらんたん亭もピアレビューに強く関心を持っており、双方ともに「アート×福祉」に関心を持っていることから、次年度のアートラウンド・プラクティス(高齢化社会/子どもの貧困)を実践するパートナーとして連携を深めていく。							

活動⑤

講座名 企画名	すみだ川アトラウンド・ハブ 流域で活動する官/民の交流の場 (2)文化セクション×文化以外のセクションの行政担当者によるダイアログ(政策研究会)								
講師名 出演者名	講師:東京ビエンナーレ2020/2021「災害対応力向上プロジェクト」プロジェクトメンバー 一色ヒロタカ(株式会社オンデザインパートナーズ) 渡邊莉奈(株式会社オンデザインパートナーズ)								
日時	9月12日(火)9:30-12:00			コマ数	2コマ				
会場・教室	東京藝術大学千住キャンパス 第7ホール				計画	実績	差		
				来場者	非公開	非公開			
				育成対象者	15	22	7		
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設 職員	公共機関 職員	民間団体 職員	民間企業 社員	その他	
	人数				19	3			
実施概要	<p>隅田川流域における文化政策/都市整備/観光/シティプロモーション等に携わる行政担当者を招き、対話の場を設けることで、将来的な広域連携の可能性を探る事業。昨年度は文化セクション職員のみを対象としたが、今後、SDGs×アートを軸に、文化セクション職員が行政区域や部署・管轄にとらわれない多様な政策分野とつながれるよう、今年度は文化セクション以外の職員も参加する仕組みを模索した。</p> <p>今年度は関東大震災から100年目の節目であることを踏まえ、第1回目の企画として「防災×アート」をかけあわせた活動を行っているゲストを招き、その実践事例を踏まえたワークショップやディスカッションを通じて、隅田川流域におけるこれからの防災について考える機会を設けた。</p> <p>流域団体への声がけの結果、東京都建設局河川部、台東区、墨田区、北区、足立区、公益財団法人東京都公園協会から職員が参加。文化セクションだけではなく、防災セクションの職員にも参加いただくことができた。</p> <p>第2回も非公開の講座として、年度下半期に実施予定。</p>								
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況				
	流域7区の行政職員が、観光・都市整備・地域文化振興など、分野を横断して対話できる場を提供し、アトラウンド・テーブルへの関心の向上・参画を促す。このことにより、より多くの分野や職員の対話の機会を創出し、また多くの人材がアトラウンド・テーブルに参加することにより、各人材の知見や経験が深まる。				防災とアートという異なる分野に従事する流域の職員が集い、アートを軸に、分野を横断して対話する契機となった。ワークショップやペアワークを通じ、アートが掛け合わされることで、社会課題に対してユニークなアプローチが可能となることを、行政職員が体感することができた。				
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストによる「防災×アート」の取り組みを育成対象者に深く体感してもらうことを企図して、会場レイアウト、回答方法、ディスカッション方法などについて工夫を凝らした。結果、属性に捉われない柔軟な発言が多くみられ、地域課題や集合知の掘り起こしにアートが寄与し得ることを参加者である育成対象者が確認することができた。 ・広域連携や領域横断に対し、団体間の積極性の差が徐々に浮かび上がってきている。第2回は、改めて隅田川流域のポテンシャルについて参加団体が確認する仕立てとなるよう、検討する必要がある。 								

活動⑥

講座名 企画名	すみだ川アートラウンド・キックオフミーティング2023							
講師名 出演者名	<p>ゲスト登壇者：湯浅博(東京東信用金庫 常勤理事 地域創生本部担当) 中村明弘(ヒューリックホテルマネジメント株式会社 事業企画部開発室 参事役)</p> <p>登壇者：熊倉純子(東京藝術大学 教授)、森隆一郎(合同会社渚と 代表社員/アーツカウンシルさいたま プログラムディレクター)、清宮 陵一(NPO法人トッピングイースト 理事長)、芦部玲奈(NPO法人トッピングイースト) 吉田武司(NPO法人音まち計画)、酒井雅代(ムジタンツ)、渡邊梨恵子(一般社団法人谷中のおかって)</p>							
日時	6月25日(日)14:30-17:30				コマ数	2コマ(1コマ=1.5時間)		
会場・教室	東京藝術大学 千住キャンパス第7ホール					計画	実績	差
					来場者	*育成対象者を兼ねる		
					育成対象者	80	63	-17
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設 職員	公共機関 職員	民間団体 職員	民間企業 社員	その他
	人数	12	1	0	6	12	13	19
実施概要	<p>「ラウンドテーブル」・「プラクティス」・「ハブ」の3つの柱からなる本事業に集まった人々の相互交流を促し、昨年度の活動実績の全貌を共有する「すみだ川アートラウンド・キックオフミーティング2023」を開催。前半では、東京東信用金の湯浅博氏とヒューリックホテルマネジメント株式会社の中村明弘氏をお招きし、隅田川流域でのSDGs実践や、今後の文化・芸術分野との関わりの可能性などを伺った。後半は、3つの柱の総括ディレクターによる令和5年度以降の活動ビジョンのプレゼンテーションを実施。終了後は、会場参加者を交えて対話・交流を促すグループディスカッションを行った。</p> <p>当日の様子は2パートに分けてレポートを作成し、すみだ川アートラウンド公式ウェブサイトにて公開した。</p>							
アートマネジメント 人材育成目標	申請時				達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・アートによるSDGs課題解決に関心のある企業や行政関係の職員の啓発 ・社会と接続する芸術活動をさまざまな形で支援する市民を増やす 				<p>本事業の参加者の属性では、「その他」を除き「民間企業社員」13名、「公共機関職員」6名が参加。そのうち、会場参加したのは、「民間企業社員」5名、「公共機関職員」3名、また文化・芸術分野以外の「民間団体職員」が6名で、本事業やアートによるSDGsの課題解決に興味関心の高い方々が多く、様々な属性の参加者に向けた啓発へと繋がった。</p>			
活動で得た課題 や経験、今後の 活用予定	<p>本事業が他分野領域とつながる入り口となる可能性を感じた。また、アンケートでは、「どのプロジェクトも興味深かったが、ムジタンツさんの活動が興味深かった。実施プログラムを見学できる機会がありましたら嬉しいです」や「今の社会にとって意味のある、アートを通した様々な活動が広く知られ、さらに人と人がつながる大きな流れになると良いなあと思います。今後、是非自分も参加することができたらと思っています」といった意見もあり、実施に現場に関わる機会を求めていることも実感することができた。次回開催では、活動実績やビジョンの共有に留まらず、より参加者にとって現場参画への機会となるようにプログラムの設計を検討していく。</p>							